

第2章 各論

1 調査地域の概要

旧湯来町は、東は広島市安佐北区及び安佐南区、西は廿日市市、南は広島市佐伯区、北は安芸太田町に接し、面積は162.87km²に及んでいる。山群と河川は中国山地西部に顕著な北東-南西方向の断層線に沿っており、南西から北東に向けて、大峯山(1,039.8m)、冠山(湯来冠山)(1,004.4m)、天上山(972.6m)が連なり、それに平行して、南には阿弥陀山(837.1m)と東郷山(977.4m)の山塊が位置する。

最低海拔は太田川に沿った^{さかいち}久日市地区の110mで、最高海拔は大峯山の1,039mである。

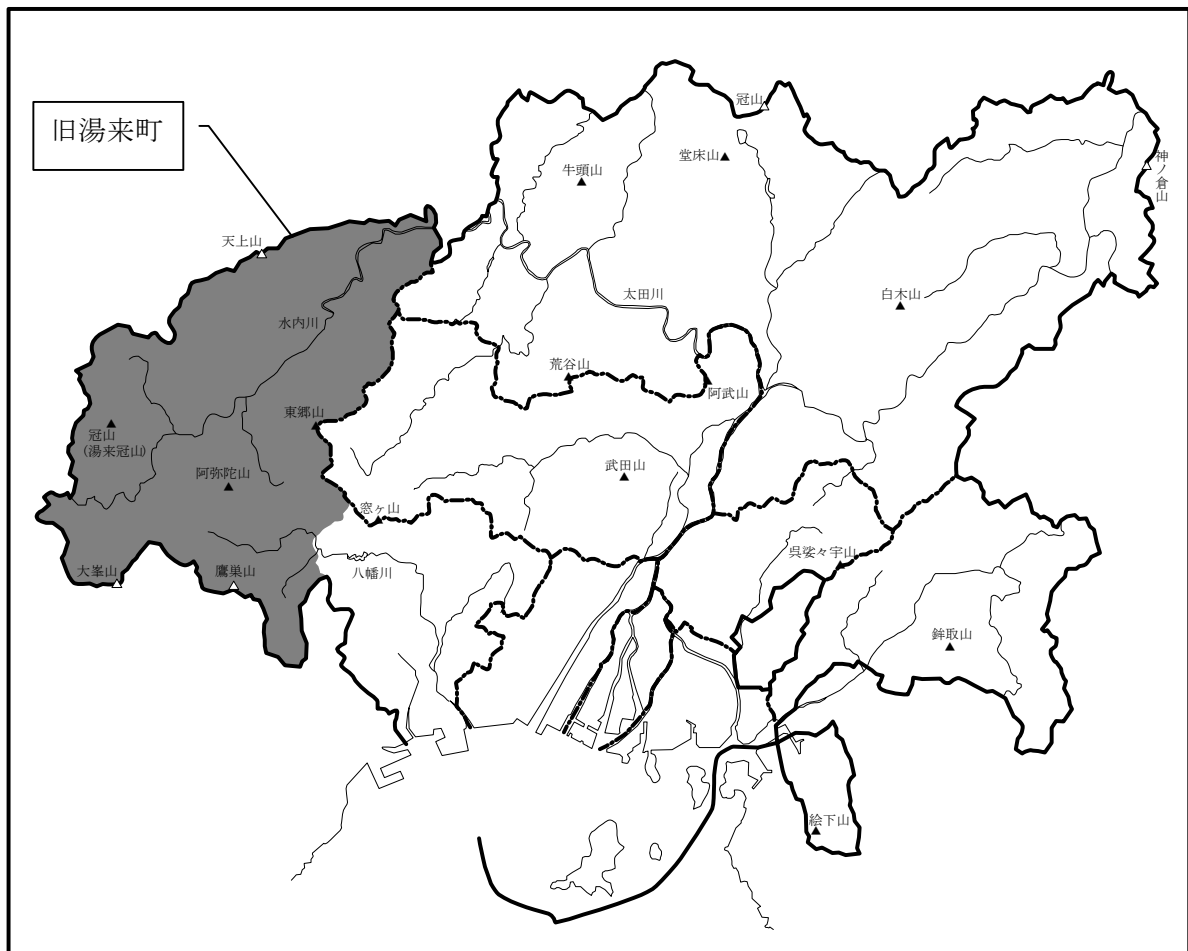


図2 旧湯来町の位置

平行する大峯山、冠山、天上山の山塊と阿弥陀山、東郷山の山塊の間を^{みのち}水内川が流れて、太田川に合流している。^{みのち}水内川は廿日市市吉和の「もみの木森林公園」に源を発し、南東に流れて東山溪谷(本多田川)となる。やがて多田地区本多田で大峯山方面から流下した河川と合流して向きを北東に変えて^{みのち}水内川本流となり、打尾谷川、石ヶ谷峡、伏谷川、恵下谷の川、天上山からの川などを加えて^{さかいち}久日市地区で太田川に合流する。^{みのち}水内川は全長約28km、旧湯来町の背骨ともいふべき“大河”である。^{みのち}水内川では元禄3年(1690年)から川船の運行が始まり、

木材、薪、木炭などが太田川を經由して、広島城下へ運ばれた。

また、旧湯来町には、もうひとつ水系を異にする八幡川の流域がある。阿弥陀山、鷹巣山、廿日市市原との境界の山々及び東郷山南部を水源として、数本の川がゆるやかな高原状の地形を流れ、白川で八幡川としてまとまり、広島湾に注いでいる。水内川と八幡川の分水点は伏郷地区の大森神社境内であり、かつて大森神社には、その名のおりスギの大木が茂り、広島県天然記念物に指定されていた。平成3年(1991年)の台風19号によってこの社叢は壊滅的な被害を受け、天然記念物の指定を解除された。現在も、大森神社境内に小さな池があり、この池が水内川と八幡川の分水点になっている。

旧湯来町は、明治22年(1889年)に多田村と菅沢村が合併して上水内村に、和田村と麦谷村、下村が水内村に、葛原村、白砂村、伏谷村が砂谷村となった。昭和31年(1956年)にこれら3村が合併して湯来町となり、現在でも砂谷・水内・上水内の3地区に区分され、それぞれの地域に特性がある。砂谷地区は八幡川の源流域であり、水内地区は水内川の中・下流域、上水内地区は上流域である。砂谷地区は高原性の地形で比較的耕地が多く、酪農などを中心とした農業が盛んである。水内・上水内地区は森林地帯で耕地が少なく、林業を主産業とし、コンニャクなどの生産もしている。また、水内地区に湯の山温泉、上水内地区には湯来温泉があり、観光地としての特性もある。

旧湯来町の地質は水内川を境にして北西部と東南部で異なっている。北西部は花崗岩地帯で、土壌は貧養で森林の発達が悪く、湯ノ山や石ヶ谷峽などには岩峰が多くある。景観は優れているが、アカマツなどの貧弱な森林で、スギ・ヒノキ植林には不向きである。一方、東南部は芸予層と呼ばれる中生代の堆積岩類で砂岩・緑石岩・粘板岩・蛇紋岩などからなっている。芸予層は、かつて古生層とされていたが、1970年代から1980年代にかけて研究が進み、中生代三畳系〜ジュラ系の微化石が発見され、中生代起源のものとなった。水内川東南部の芸予層地域はスギ・ヒノキ植林の適地で、県内でも屈指の林業地帯となっている。花崗岩と異なり栄養分の豊富な土壌と急峻な地形があいまって、自然植生も多様性に富み、東郷山北面の恵下山(恵下谷山国有林)は植物相の豊富な地域として古くから有名である。

恵下山は藩政時代から御留山として伐採が禁じられてきた。広島大学の前身である広島高等師範学校並びに広島文理科大学では、植物学の実習コースとして、五日市から徒歩で河内峠を越えて湯の山温泉に向かい、ここで一泊し、恵下山で実習をして、水内川を船で下り、太田川を經由して広島に帰ったという(故 辰野誠次博士の話)。当時の恵下山は谷の入口からモミの巨木が林立し、樹幹にはクラガリシダがたくさん着生していたという(故 越智謚武氏の話)。牧野富太郎博士は明治44年(1911年)に広島高等師範学校の乾環教授と白神寿吉助手の案内で、このコースを踏査している。この時の牧野博士の採集品からクラガリシダが報告され、チュウゴクザサが新種として発表された。残念ながら、恵下谷山国有林は戦時中に大規模に伐採され、現在は東郷山の北斜面に「天然スギ学術参考保護林」(15.61ha)と「コウヤマキ保護林」(1.45ha)の自然林が残るのみとなってしまった。現在、恵下谷にはモミの巨樹が1本だけ林道脇に残り、わずかにクラガリシダが着生している。このモミも、ごみ最終

処分場候補地の区域に入るのはないかと危惧されている。往時の原植生を偲ぶ貴重なモミであり、保存されることが強く望まれる。

湯来温泉は、水内川の支流である打尾谷川に沿い、大同年間(806～810年)の発見といわれ、1200年近い歴史をもつ温泉である。黒雲母花崗岩の割れ目から湧出し、泉温28.1℃、pH8.6、ラドン含有量31.76マッヘで世界第4位といわれている放射能泉である。湯の山温泉は水内川に沿う湯ノ山にあり、富士山が大爆発した宝永4年(1707年)に湧出し、浅野藩によって長年保護されてきた。泉温はやや低く23.6℃、pH8.6、ラドン含有量23.15マッヘである。湯ノ山明神旧湯治場は国の重要有形民俗文化財で、昭和49年(1974年)に指定された。水内鉦山跡は和田地区恵下谷の入口付近にあり、芸予層の粘板岩を花崗岩が貫いた接触交代～高熱水作用によってできた鉦床で、黄銅鉦・黄鉄鉦・螢石などを産出したが、現在は採石場となっている。伏谷から伏谷口までの谷筋には緑色岩が川床にあり、「湯来石」として庭石などに珍重され、ほとんど取り尽されてしまった。緑色岩は中生代の海底火山の噴出による火山灰を起源としている。

旧湯来町は自然に恵まれており、広島県が指定した自然環境保全地域は「石ヶ谷峡」(昭和49年(1974年)指定)、「大峯山」(昭和51年(1976年)指定)、「湯の山」(昭和52年(1977年)指定)の3か所、緑地環境保全地域としては「東山溪谷」(昭和58年(1983年)指定)がある。そのほか、恵下谷山国有林の保護林には県内最大のスギである「四本杉」があり、自然植生として優れている。旧湯来町には国定公園や県立自然公園はないものの、広島市の旧8区には自然環境保全地域、緑地環境保全地域が、それぞれ「福王寺山」、「蓮華寺」の各1か所しかないことと比較すると、いかに旧湯来町の自然が優れているかが分かる。